

2026

2月1日(日)

新春
公演

神話の源流

出雲神楽

◆午前の部「国譲」

◆午後の部「簸の川大蛇退治」

◆出演団体

薦沢神楽社中

こまぎわかぐらしやちゆう

*雲南市指定無形民俗文化財

午前の部 11時20分ー12時(開場11時00分)
午後の部 13時20分ー14時(開場13時00分)
会場ー安来節演芸館
お問い合わせ 0854-289500

入場料(未就学児童無料)

大人 1,000円 小中学生 500円

午前・午後通し券

大人 1,500円 小中学生 800円

*チケット取り扱い 安来節演芸館、アルテピア

*餅まきも行います

【主催】安来節演芸館 【協力】古代鐵歌謡館

出雲國たたら風土記 ～鉄づくり千年が生んだ物語～

日本遺産「出雲國たたら風土記～鉄づくり千年が生んだ物語～」では、構成する安来市・雲南市・奥出雲町の景観や文化に大きな影響を与えてきた「たたら製鉄」が、今もこの地に息づいていることを物語として描いています。

普段何気なく目にする棚田の光景や地域に残るお祭りなど、この地域を彩るさまざまなものがたたら製鉄との関わりを持っており、ヤマタノオロチの神話がたたら製鉄の歴史になぞらえて語られ、暮らしの楽しみとして神楽を発展させたように、それら全てが神々の時代からの長いたたら製鉄の歴史が育んできたものです。また、精製した鉄輸送で港町安来が発展し、全国の地域との交流から「民謡安来節」も生まれました。

◆演目紹介

「国譲り」

大国主大神（おおくにぬしのおおかみ）は、この国土を豊かな国と国づくりなさいました。そこに高天原より天照大御神（あまてらすおおかみ）の遣い神として経津主神（ふつのしのかみ）・建御雷神（たけみかづちのかみ）が出雲の稲佐の浜に天降られます。そして、この国土を天孫（てんそん＝皇室の御祖先神）に譲るよう大国主大神に申し出られ、国譲りの話し合いが始まります。大国主大神、また御子神の事代主神（ことしろぬしのかみ）は快く承諾されますが、同じく御子神である建御名方神（たけみなかたのかみ）はこれを承諾せず、建御雷神と力比べをすることになりました。ところが、この建御雷神は高天原屈指の剛力の持ち主。さすがの建御名方神もかないません。追いつ追われつの力比べは信州諏訪の地にまで及び、降参した建御名方神は国譲りに承諾され、お鎮まりになります。こうして大国主大神が国づくりなさったこの国土は、天孫に譲られたのです。そして、天津神（あまつかみ＝天上界の神）は大国主大神の御偉業を称えられ、壮大な神殿（出雲大社）を造営されて、天孫邇邇藝命（にぎのみこと）が天降られ国の基が定まりました。



「簸の川大蛇退治」

高天原（たかまがはら＝天上界）より出雲国の簸の川（現在の斐伊川）に天降られた須佐之男命（すさのおのみこと）は、そこで一人の娘を連れた老夫婦に出会われます。老夫婦の名は足名椎神（あしなづちのかみ）と手名椎神（てなづちかみ）、娘の名は奇稻田姫（くしいなだひめ）と言いました。親子が嘆き悲しんでいるので、須佐之男命がその理由を尋ねられると、「毎年、八俣大蛇（やまたのおろち＝大蛇）が来て娘を食べてしまう。私たちには八人の娘がいたが、大蛇に食べられてしまい、最後に残ったこの娘も食べられてしまう」とのことです。須佐之男命はその大蛇を退治することを決意され、その暁には奇稻田姫を妻として迎えることを老夫婦に申し出られます。老夫婦は娘の幸せのためにと承諾しました。そこで大きな樽に酒を満たし、大蛇が現れるのを待たれます。姿を現した大蛇が勢いよく酒を呑みほし、酔いつぶれて眠ってしまうと、ここぞとばかりに剣を斬りつけ、見事に大蛇を退治されました。その時、大蛇の尾先から剣が出現します。これが三種の神器の一つである天叢雲の剣（あめのむらくものつぎ）です。

さて、須佐之男命は奇稻田姫とご結婚され、須賀の地（現在の雲南市大東町須賀）にて「八雲立つ 出雲八重垣妻ごみに 八重垣つくる その八重垣を」と和歌を詠まれ、仲むつまじくお暮らしになりました。



こもざわ かぐら しゃちゅう

出演団体「薦沢神楽社中」

薦沢神楽は、今から 200 年以前より舞われていたようです。明治 30 年代の後半において、出雲大社教の直属神楽として大社の紋どころを許され、神楽師の辞令を下付されるに及び、以来、出雲大社教神代神楽薦沢社中と称するに至り、地元氏神様の祭例はもとより、近隣の神社のお祭りの奉納神楽、又各イベントでの公演、町外或いは県外への進出を図りながら、また一方では、この伝統ある郷土芸能をより確実に後世に伝えるため神楽の後継者づくりに力点を置き、全力を傾注しているところです。

舞方には出雲神楽の特色、優雅・素朴・品位の三つの理念に基づき、更に迫力を加えた舞方に力点を置いています。

同時開催

◆たたら焚き火と冬マルシェ◆

神楽を観る前や観終わつた後に暖かい火のそばで、ひと休みしませんか？昔の鉄づくりを思い起こさせる焚き火と、地元の美味しいものが並ぶ小さなマルシェをひらきます。やさしいもや暖かい食べ物を食べながら、家族や友達とゆつくりお楽しみください。
ホール内での飲食も OK です。

◆お問い合わせ

0854-28-9500

安来節演芸館

〒 692-0064

島根県安来市古川町534

